2024年度

医学部オープンキャンパスを開催しました

学務課入試担当

8月3日（土）に医学部オープンキャンパスを開催いたしました。入試広報の一環として、高校生を対象に毎年行っているものです。

今年度も猛暑の中の実施となりましたが、医学科284名、看護学科189名の計473名（保護者等付添者含む）の方にご参加いただきました。

医学科では、学科長による学科紹介・入試説明の後、5年ぶりとなるキャンパスツアーを行いました。医学英語の模擬授業や外科学講座の講義から、スキルアップセンターでの医療手技体験（写真1）、VR を使用した薬理学実習（写真2）といった体験型の企画も行いました。また、高度外傷センターやリハビリテーション部といった実際の医療現場でも見学と実習体験を行い（写真3）、「貴重な経験をすることができた」と好評でした。

看護学科でも、学科長による学科紹介・入試説明の後、3つのグループに分かれ、キャンパスツアー（写真4）、様々な現場で活躍されている卒業生からのメッセージ動画視聴（写真5）、ベビーケアの模擬演習を行いました。模擬演習では、簡単な講義とデモンストレーションの後、実際に新生児の人形を使ってドライケアやオムツ交換などを体験しました（写真6）。

各学科のキャンパスツアーの案内や実習体験の指導には在学生にも参加してもらい、和気藹々とした雰囲気となりました。

参加者からは、「実習や体験の企画が多く、とても充実した時間を過ごすことができた。」、「参加する前より、島根大学に入学したいという思いが高まり、受験勉強を頑張ろうと改めて思った。」などの感想がありました。

今年度も会場型のオープンキャンパスに加え、WEB 型として、学科長による学科紹介動画や広報サポーター作成動画などを大学 HP に掲載しております。


写真 1　スキルアップセンターでの医療手技体験


写真 2　VR を使用した薬理学実習


写真 3　医療現場見学（高度外傷センター）


写真 4　キャンパスツアー


写真 5　卒業生からのメッセージ動画視聴


写真 6　模擬演習

問い合わせ先　学務課入試担当　TEL：0853-20-2087

Vol.131 2024 09 島大病院ニュース
2024年９月発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

Shimane University Hospital
島大病院ニュース
NEWS
2024年 9月
Vol.131

CONTENTS

中表紙
・放射線治療
　～あらゆるがん腫に対応できる!! ～
・薬剤部長就任のご挨拶

裏表紙
・2024年度医学部オープンキャンパスを開催しました

表紙：副病院長　鬼形　和道

放射線治療
～あらゆるがん腫に対応できる!!～

放射線治療科　診療科長　　玉置（たまき）　幸久（ゆきひさ）

放射線治療科はがんなどの悪性腫瘍に対して放射線治療を提供している診療科で、外部照射、密封小線源治療、アイソトープ治療という3種類の放射線治療を行っています。

まず外部照射についてです。外部照射とは治療装置から人体にむけて放射線を照射する治療法で、当院にはラディザクト（写真1）とトゥルービーム（写真2）の2台が稼働しています。ラディザクトは高精度放射線治療に強みを持ち、また呼吸で動く腫瘍に対して照射ビームを追尾できる動体追尾照射機能を搭載しています。トゥルービームは３種類のＸ線と5種類の電子線を有し、シンプルな照射から高精度放射線治療まで様々なタイプの治療を行うことができます。この両者を組み合わせて、緩和照射から、高精度のピンポイント照射まで、病状や患者さんの状態などに応じたきめ細かな治療を行っています。


写真１　外部照射機器-ラディザクト


写真２　外部照射機器-トゥルービーム

次に密封小線源治療についてです。密封小線源治療とは放射性物質を密封した小さな線源を腫瘍内やその近くにコンピュータ制御で送り込み、局所的に強い線量の放射線を照射する治療法です。県内では当院が唯一の治療可能施設です（写真３）。子宮頸癌の根治治療に必要不可欠であることから、島根県全域、そして広島県や山口県の一部からもこの治療を受けに来られます。


写真３　密封小線源治療装置

最後にアイソトープ治療についてです。アイソトープ治療とは、放射線同位元素を体内のがん細胞に選択的に取り込ませ、そこで放射線を放出することでがん病変を治療する方法です。当院ではアイソトープ治療専用の病床を有しており、2024年6月からは新たに神経内分泌腫瘍に対するルテチウム-177治療が開始されました。

放射線治療科では多くの診療科と合同カンファレンスを行っており、緊密に連携しながら、全身のあらゆるがん腫に対応しています。

放射線治療の適応に関するご相談がございましたら、放射線治療科外来までお問い合わせください。

問い合わせ先　放射線治療科外来　TEL：0853-20-2002

薬剤部長就任のご挨拶

薬剤部　教授・薬剤部長　　矢野（やの）　貴久（たかひさ）



このたび、2024年8月1日付けで、当院の教授・薬剤部長を拝命いたしました矢野貴久と申します。私は福岡県の出身で2019年1月に九州大学病院より当院薬剤部の准教授・副薬剤部長として着任しました。これまでの５年間、患者さんに最適な薬物療法を提供するべく日々の業務に取り組んでまいりました。2024年３月末に前任の直良浩司教授がご退任され、４月以降は病院長補佐（安全管理担当）や医薬品安全管理責任者などを務めておりますが、このたび教授・薬剤部長を拝命し、その責任の重さを痛感しております。これまでの経験と知識を生かして、患者さんに安心して治療を受けていただけるよう、医薬品の安全使用や適正管理を徹底し、地域全体の医療の向上に寄与したいと考えております。

医薬品は、あらゆる治療において欠かせない存在ですが、私たち薬剤師もまた、患者さんに最適な治療を提供する上で不可欠な存在であり続ける必要があります。私が学生だった20数年前までは、薬剤師の業務は主に調剤やお薬の提供が中心でした。しかし、現在では、薬剤師は患者さんの薬物療法の開始や継続に積極的に関わり、医師や看護師、臨床検査技師などの多職種チームで密に連携しながら、治療の質を高める役割を担うようになりました。当薬剤部は、こうした連携を一層強化し、患者さんに提供する医療の質をさらに高めるために、全力を尽くしてまいります。

その一環として、品質マネジメントおよび品質保証のための国際規格であるISO9001品質マネジメントシステムの認証を2013年より取得しています。認証された品質マネジメントシステムに基づき、薬剤業務や薬物療法のマネジメントを実践することで、すべての患者さんの治療の質の向上と安全性の確保に努めてまいります。

一方で、昨今は医薬品の製造や供給の問題が多発しており、地域での情報共有や連携がますます重要になっております。皆様方からのご指導とご支援を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先　薬剤部薬務室　TEL：0853-20-2463

Shimane University Hospital

ご報告



NHK 松江放送局


TSK さんいん中央テレビ鉄塔



しまね海洋館アクアス


山陰合同銀行本店ビル

「2024世界肝炎デー」啓発活動を行いました

肝疾患相談・支援センター　センター長　飛田（とびた）　博史（ひろし）

7月28日は世界肝炎デー（7月22日（月）～7月28日（日）は肝臓週間）でした。

当院は肝疾患診療連携拠点病院として島根県から指定を受け、肝疾患相談・支援センターを設置し、主にＢ型肝炎やＣ型肝炎に関する相談、医療情報の提供、講演会等を行っています。

この度、2024年度肝炎対策事業の一環として、啓発ポスターを院内に掲示し、肝臓週間には一部のスタッフが啓発マスクを着用して啓発活動を行いました。（写真１）

また、肝臓週間に合わせて出雲日御碕灯台、ＴＳＫさんいん中央テレビ鉄塔、ＮＨＫ松江放送局、山陰合同銀行本店ビル、しまね海洋館アクアスを肝炎デーのシンボルカラーブルーにライトアップしました。

日本海テレビでは世界肝炎デーについて情報番組で取り上げていただき、肝臓週間には山陰中央テレビと日本海テレビにて啓発ＴＶＣＭを放映しました。（写真２）

８月３日（土）には市民公開講座を隠岐の島町にて開催し、沢山の方にご参加いただきました。（写真３）

なお、当センターでは肝臓病教室・家族支援講座を年に数回開催しています。最新治療や日常生活の注意点など肝疾患に関する知識向上を目的とした内容や、ご家族にも役立つ情報を盛り込んだ講演となっており、当センターＨＰ上にて動画配信形式で開催しています。ぜひご視聴ください。

今後とも肝疾患診療連携拠点病院の活動に、ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

写真１



写真２



写真３



問合せ先　肝疾患相談・支援センター　TEL：**0853-20-2721**（9：00～16：00）

肝疾患相談・支援センター HP

ご報告 島大病院ニュース
2024年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2024年9月

ご報告



筆者左から３人目

提供：経済産業省

「日本スタートアップ大賞2024」にてPuREC株式会社が「審査委員会特別賞」を受賞しました

生命科学講座　教授　松崎（まつざき）　有未（ゆみ）

医学部生命科学講座の教授松崎有未が立ち上げた島根大学発ベンチャー企業 PuREC 株式会社が、経済産業省が主導する「日本スタートアップ大賞 2024」で「審査委員会特別賞」を受賞しました。

PuREC 株式会社は、再生医療に不可欠な幹細胞について、極めて高品質な超高純度間葉系幹細胞「REC」を開発し、大学や製薬会社などに対して研究のための販売や支援を行っています。REC を用いた研究開発により、骨や脂肪などの再生、免疫調節、脳卒中や心筋梗塞などの治療を目指しています。REC の培養技術の革新と細胞治療に関する研究が高く評価され、今回の受賞に至りました。

７月 22 日（月）には、首相官邸にて授賞式が行われ、代表取締役社長の髙橋英之氏が岸田首相に対し、骨や軟骨の難病に苦しむ患者さんのために REC を使った細胞治療を研究・開発する事業の意義を説明しました。また、日本国内外の患者さんや医師・研究者からの期待の声も伝えました。

島根大学は、ベンチャービジネスや NPO 及び NGO の設立を目指して起業活動を行う学生や教職員を支援しています。

PuREC 株式会社は、「しまね大学発・産学連携ファンド」から出資を受ける第１号の「島根大学発ベンチャー企業」として設立されました。今後も、骨や軟骨の難病に苦しむ方々や、現行の治療法では十分な効果が得られない患者さんのために、より効果的な再生医療の早期実現を目指していきます。

問合せ先　PuREC 株式会社　TEL：**0853-25-3033**

ご報告 島大病院ニュース
2024年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告






病院職員向けキッチンカー出店中

職場環境改善支援センター長　浦田（うらた）　明宏（あきひろ）



当院の職場環境改善支援センターでは、職員が健康かつ働きがいを感じながら職務遂行ができる環境の整備と充実を目指し活動を行っております。

今年度は各種相談窓口のご案内、心身の健康増進に関する情報発信を開始し、職員満足度の向上に努めています。

今年度から、医師の働き方改革が始まり、職員の負担が大きくなっているなか、福利厚生とやる気向上の一環として、キッチンカーの出店を始めました。

毎週水曜日又は木曜日に出店しており、左記は、出店に協力いただいたお店のメニューです。

基本的に、食事をメインに提供し、毎日の食事に変化を取り入れることで、満足度向上につながっていけばと考えております。（おなかを満たすことは大事なことだと常々思っておりますので。By センター長）

出店初日（７月 11 日（木））は、約１時間で完売となるお店も出て、大盛況のスタートとなりました。

購入いただいた方からは、「美味しそうなかおりに誘われてきました。食べるのが楽しみ!」「いつもの昼休みが至福の時間に!」など、嬉しいコメントもいただきました。

また職員割を設定したことも影響してか、たくさんの方に利用いただきました。

この活動が、職員の活力となればと、今後も精進したいと思っております。



問合せ先　総務課労務管理担当　TEL：0853-20-2010

ご報告 島大病院ニュース
2024年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2024年9月

ご報告

学生インセンティブ表彰を行いました

学務課・学生支援担当

医学部では、前年度一年間に優秀な学業成績を収めた学生の努力と成果を称えるために、「学生インセンティブ表彰」を行っています。今年度は、各学年数人ずつ合わせて 21 名の学生が表彰の対象者となり、８月２日（金）に対象学生の表彰式を執り行いました。

表彰式では、医学部長から、「みなさんの頑張りは素晴らしく、このたびの受賞は大変喜ばしいことです。今後も将来素晴らしい医療従事者となるための努力を続けてください。」とのお祝いの言葉とともに、賞状が授与され、学生たちは大変喜んだ様子でした。

今年度受賞者の中には、昨年度から引き続き受賞した学生もいました。自分の目標に向かって努力を続けることは容易なことではありませんが、その努力を続けている証拠です。これからも学生たちの模範となってくれることを願っています。

なお、受賞者には副賞として希望図書１万円相当が後日贈呈されました。




問合せ先　学務課・学生支援担当　TEL：0853-20-2088

ご報告 島大病院ニュース
2024年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告

自己フィブリン糊の院内製造を開始しました

輸血部長　井上（いのうえ）　政弥（まさや）

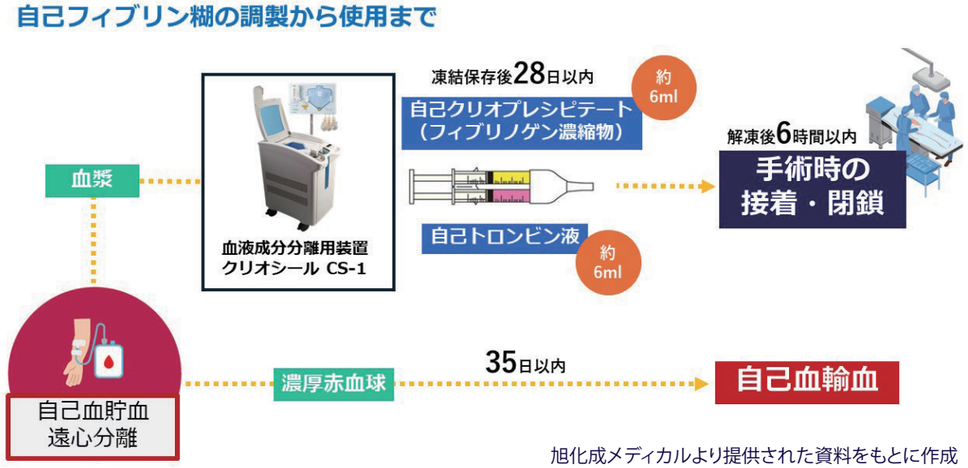
2024 年 8 月より、「自己フィブリン糊調製システム（クリオシールシステム）」を新たに導入し、自己フィブリン糊の作製を開始しました。

フィブリン糊は、外科手術における出血箇所の閉鎖や臓器の創傷部の接着に広く用いられる血漿分画製剤です。これまで、製薬会社により作成された同種血由来のフィブリン糊のみを使用しておりました。この製剤は高い安全性を有していますが、ごく稀に感染症や免疫学的副作用が生じる危険性がありました。

今回導入したクリオシールシステムでは、事前に自己血を貯血し、遠心分離によって濃厚赤血球と血漿に分け、血漿成分から自己フィブリン糊を作製します。また、フィブリン糊と同時に製造した濃厚赤血球は手術時に自己血輸血として使用することが可能です。これにより、同種血由来製剤を使用する際に懸念される感染症やアレルギー反応のリスクを低減させることが期待されます。

当院で手術を受けられる患者さんが安全で安心な治療を受けていただくために、自己フィブリン糊が少しでも役立つことができるよう、クリオシールシステムの利用を促進してまいります。

写真 1　自己血採血後、血漿を分離し、自己クリオプレシピテートと自己トロンビン液を調整し、それぞれのシリンジに回収、凍結保存されます。手術時に解凍・混和し、組織の接着・閉鎖に使用します。



旭化成メディカルより提供された資料をもとに作成

問合せ先　輸血部　TEL：0853-20-2421

ご報告 島大病院ニュース
2024年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2024年9月

ご報告



「高校生の一日看護体験」を実施しました

看護部長　川上（かわかみ）　利枝（としえ）

島根県と島根県看護協会の事業を受けて、８月２日（金）に県内の高校生（1 年生～ 3 年生）を対象として「一日看護体験」を開催しました。看護体験を通して、看護の心や看護職への関心を高めてもらい、ひとりでも多くの皆さんに看護職を目指してもらうことを目的としています。

今年度は、県内 19 校 71 名と沢山の参加がありました。高校生 1 ～ 3 名が一般病棟、クリティカル病棟、外来等の 13 部署に分かれてケアなど看護師・助産師と一緒に看護の場面を体験しました。また、高度外傷センター、ドクターカー、NICU・GCU 等の見学やクリニカルスキルアップセンターで、聴診器を使用しシミュレーターを利用しての肺音の聴取、新生児の抱っこ体験、衛生学的手洗い体験を行いました。

看護体験後、「看護師さんが患者さん、一人ひとりに丁寧な対応と、その人に合った取り組みをされていて、かっこいいなと憧れを持ちました。たくさんのお話を聞かせてもらえてとても楽しい看護体験になりました。」「より看護師、助産師になりたい気持ちが増して、これからも勉強をがんばろうと改めて思えました。」「初めて看護体験をして、上辺だけの「看護師になりたい」が少し深く考えて患者さんとどう向き合っていくか悩むことができました。もっと看護師になるために勉強や、看護師に必要なスキルを磨いていきたいと思いました。ありがとうございました。」等の感想が聞かれました。

問合せ先　看護管理室　TEL：0853-20-2478


聴診器を使用して肺音を聴取している様子


新生児の抱っこ体験の様子


看護部の概要を聴いている様子

ご報告 島大病院ニュース
2024年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告





2024年 夏 病棟の子どもたちと花火大会！

C病棟６階　チャイルドライフスペシャリスト　黒崎（くろさき）あかね
病棟保育士　椿（つばき）　敦美（あつみ）
看護師長　陰山（かげやま）　美保子（みほこ）

７月 30 日（火）夕方より大学のグラウンドで花火をしました。入院中の子どもたちは、窓から外をみながら「外で遊びたいな」「散歩に行きたいな」と願っています。中には、１ヶ月以上も外に出ることができずに、治療や検査・リハビリを頑張っている長期入院中のお子さんもいます。花火の案内に「いつ?どこでするの?」と心待ちにしてくれました。

手術後や治療中で食事がなかなか進まない子どもさんですが、「夕食後に集合ね。」の言葉に、花火の日の夕食は積極的にパクパク食べて摂取量倍増で、スタッフは嬉しい驚きがありました。

今回、広いグラウンドなので、入院中の子どもさんのきょうだいも参加としました。面会もできず、外出・外泊も出来ず、入院中離ればなれの兄弟姉妹と束の間でしたが、共に花火を楽しむことができました。手持ち花火の輝きや吹き出す火花の色彩の変化を楽しむことが出来ました。子ども達は「花火がきれいだった。楽しかった」と。ご家族からは「子どもの楽しそうな顔が見られてよかった。」「花火、久しぶりでした。」「子どもにとって辛い入院生活の中、花火ができ、親子ともども心が元気になった。」など、嬉しい声が沢山聞かれました。大変な入院生活の中でも、子ども達もご家族も笑顔が増える季節のイベントを大事にしたいと思います。ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

問合せ先　小児病棟　TEL：0853-20-2016

ご報告 島大病院ニュース
2024年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2024年9月

ご報告

島根コネクトフォーラムを開催しました

循環器内科　医師　田邊（たなべ）　淳也（じゅんや）

心不全は高齢社会における重大な健康問題です。日本の最近の研究では、2040 年には急性心不全で入院する患者の約 60% が 85 歳以上になると予想されています。しかし、高齢の心不全患者は多くの併存疾患、ポリファーマシー、栄養障害、認知機能障害、身体機能の低下（フレイル）など、心疾患以外の医学的課題を多く抱えており、さらに社会的、環境的、経済的な問題にも悩まされていることが多く、ケアの複雑さやケアの選択、医療の提供に影響しています。そのため、循環器内科医による介入だけでは限界があり、病院の医療専門職やプライマリケアを提供するかかりつけ医、在宅ケアスタッフとの連携が不可欠です。

島根コネクトフォーラム（しまこね）は心不全の診療環境向上を目指し、医師・医療従事者・行政関係者の方々とともに島根県各エリアで地域連携の体制構築と強化を目指すプロジェクトです。出雲医師会、島根県出雲保健所にご協力いただき、８月７日（水）にお集まりいただいた約 70 名の先生方やスタッフの方々とともにキックオフイベントを開催することができました。また、情報交換会では島根大学地域医学共同研究部門の中村守彦教授より、ご自身が開発された新しい減塩システム「無限レシピ」についてご紹介いただきました。

心不全患者がそれぞれの望む場所で安心して暮らし続けられる地域社会の実現を目指し、取り組みを続けて参ります。



会場の様子

問合せ先　循環器内科　TEL：0853-20-2249

ご報告 島大病院ニュース
2024年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

腫瘍内科のトピックスと島根県内の医療連携

先端がん治療センター　腫瘍内科　教授　田村（たむら）　研治（けんじ）

最近の腫瘍内科のトピックスといえば、「ライフステージ（小児、AYA 世代、高齢者）別がん医療」と、「がんゲノム医療」です。

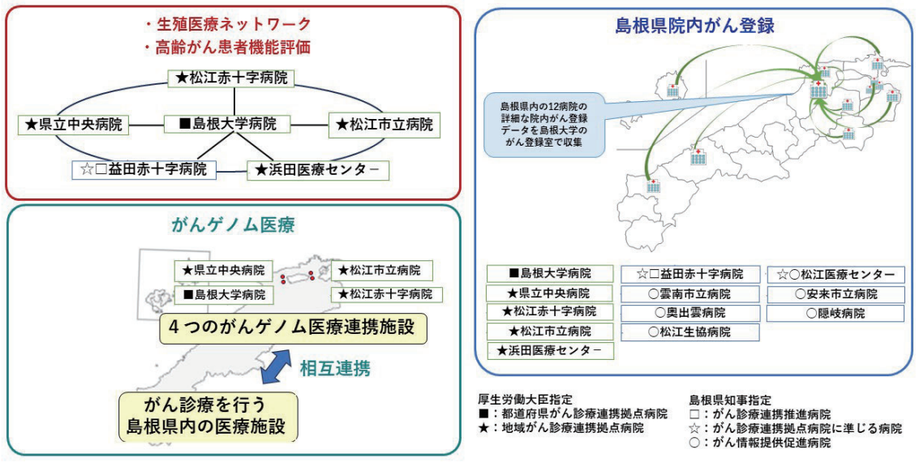
「ライフステージ別がん医療」の中でも、AYA 世代がん患者に対する「生殖医療ネットワーク (Onco-Fertility Network)」と、高齢がん患者を対象とする「高齢者総合機能評価（comprehensive geriatric assessment：CGA）が注目されています。

抗悪性腫瘍薬などを用いると、男女とも妊娠を可能とする能力（妊孕性）が低下します。AYA 世代がん患者から治療前に精子、卵子、卵巣組織などを採取し凍結保存することで、将来の妊娠に備えることが可能となります。島根県では、6 つのがん診療連携拠点病院間のネットワークを形成し、がん治療前に情報提供、希望される患者さんの妊孕性温存術と保存を可能としました（図１）。このような、拠点病院間の密な連携は、高齢がん患者を対象とする CGA についても行われています。

「がんゲノム医療」は、年々進歩しています。標準治療を実現するためのコンパニオン診断検査 (CDx)、又、標準治療を失ったがん患者に対する遺がんゲノムプロファイリング（CGP）検査が盛んに行われるようになりました。腫瘍内科では「乳腺センター」と共同し、進行・再発乳がん患者に対する薬物療法を専門としていますが、「臨床遺伝・ゲノム医療センター」と共同し「がんゲノム医療」にも力を入れており、新規抗悪性腫瘍薬を用いた薬物療法や、ゲノム異常を根拠とした個別化医療を行っています。島根県内には、４つのがんゲノム医療連携施設があり、島根県全域にわたるがん診療医療施設との連携が必要です（図１）。

がん登録には、大きく、「全国がん登録」と「院内がん登録」があります。「全国がん登録」は島根県内の罹患数を計測することが目的ですが、「院内がん登録」は、がんのステージ別治療方法など、より詳細な情報を収集することを目的としており、県内のがん政策の基礎データとして重要です。島根県内の 12 施設が「院内がん登録」に参画しています。

図１　新しいがん治療を支える島根県内の医療施設連携



問合せ先　先端がん治療センター　TEL：0853-20-2308

ご報告 島大病院ニュース
2024年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2024年9月
ご報告

高気圧酸素治療をはじめました

高気圧酸素治療センター　センター長　岩下（いわした）　義明（よしあき）
放射線治療部　放射線治療科　副看護師長　上田（うえだ）　美紀（みき）
MEセンター　主任臨床工学技士　中井（なかい）　重孝（しげたか）

2024 年 6 月より、当院にて高気圧酸素治療を開始しました（第一種装置）。高気圧酸素治療とは、装置の中に入り通常の大気よりも高い気圧環境の中で、高濃度の酸素を吸入して血液中に多量の酸素を溶け込ませ、体のすみずみまで酸素がいきわたるようにする治療法です。

治療の流れは、専用の検査着に着替えて頂き、スタッフにてボディチェックの後、ベッドに寝て装置の中に入ります。10 ～ 15 分程度かけて徐々に装置の中の圧力を上げていき、2 気圧で 60 分間、装置の中で過ごしたあと、10 ～ 15 分かけて徐々に圧力を下げていきます。治療時間は約 90 分です。装置の中にはスマートフォン等を持ち込むことはできませんが、好きな音楽を聴きながら過ごすことができます。寝返り等自由に動くこともできます。気圧の変化によって耳の痛みを感じることがある場合は、耳抜きをすることで改善します。これを 1 日 1 回、疾患や治療経過により最大で 10 回または 30 回実施します。高濃度の酸素を高気圧環境で使用しますので、カイロなど火花の散る可能性のある物品の持ち込みは厳禁です。

当院ではこれまでに、骨髄炎、放射線障害、急性末梢血管障害などの患者さんで治療を実施しました。他にも突発性難聴や難治性皮膚潰瘍、重症軟部組織感染症なども治療適応となります（表 1 参照）。高気圧酸素治療を含む治療のご依頼は元となる疾患の該当診療科へご相談ください。

写真 1　治療前の問診の様子



写真 2　治療中の様子



表 1　適応疾患

疾患	治療回数
急性一酸化炭素中毒その他のガス中毒	一連につき 10回を限度とする
重症軟部組織感染症 (ガス壊疽、壊死性軟部組織感染症) 又は頭蓋内膿瘍	
急性末梢血管障害（重症の熱傷または凍傷、広範挫傷又は中等度以上の血管断裂を伴う末梢血管障害、コンパートメント症候群又は圧挫症候群）	
脳梗塞	
重症頭部外傷もしくは開頭後の意識障害又は脳浮腫	
重症の低酸素脳症	
腸閉塞	
網膜動脈閉塞症	一連につき 30回を限度とする
突発性難聴	
放射線又は抗癌剤治療と併用される悪性腫瘍	
難治性潰瘍を伴う末梢循環障害	
皮膚移植	
脊髄神経疾患	
骨髄炎又は放射線障害	

※診療報酬点数表より引用
一部当院では治療を行っていない疾患もあります。

問合せ先　ME センター　TEL：0853-20-2489

ご報告 島大病院ニュース
2024年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/